

福祉のページ

パーキンソン病の人を対象にした「音楽療法体感コンサート」がこのほど、京都市北区の市北文化会館で開かれ、約70人が参加した＝写真（主催者提供）。

パーキンソン病への音楽療法は、歌唱や楽器の演奏をすることで身体機能の維持や筋肉の緊張軽減、心的ストレスの緩和などに効果があるといわれている。同コンサートは音楽療法を体験してもらおうと、NPO法人パーキンソン病支援センター（八幡市）が主催し、今回で10回目。

この日は、洛和会京都音楽療法研究センターの音楽療法士や夫がパーキンソン病の夫婦の音楽ユニット「げんきなこ」、三線唄者の大城敏信さんが出演。童謡や唱歌、ラテン

パーキンソン病治療に
音楽の効果体験

アソセス



音楽などを演奏したり、音楽に合わせて参加者が一緒に歌うなどをし、楽しいひと時を過ごした。

パーキンソン病支援センター理事長の寺松由美子さん（64）は「同じ病気の人たちが集まれる催しが少ない。参加してもらおうことで機能改善に役立ててもらいたい」と話していた。